

奥越のキク

奥越地域のキクは、昭和40年代から生産が始まり、現在でも福井県一の生産量を誇る産地です。京阪神を中心に出荷しており、高い評価を得ています。

奥越地域は、北陸でも有数の豪雪地帯ですが、夏は気温の日較差が大きいため、高品質のキクの切り花生産に適しています。



全国有数の夏秋ギク産地

1 生産概況

① 生産地

奥越全域で生産されるキクは、面積約15ha、販売額は約1億4千万円（H29）となっており、福井県全体の過半を占めています。

② 栽培の主な特徴

- ・主な作型は、10月に定植して6～8月に収穫する「暮れ植え栽培」と、4～6月に定植して8～11月に収穫する「春植え栽培」があります。
- ・奥越では、春先の霜などから花芽を守るために不織布で覆ったり、温暖化の影響で生育が早まることを抑える植物調節剤の使用など、独自の工夫で栽培管理をしています。
- ・さらに、切り花の日持ちを向上させ、商品としての付加価値を高めるために、品質保持剤を使うなどの取組を計画しています。



管理の行き届いた圃場



奥越オリジナル品種 奥越の舞